

(様式第 9)

慈病管 (23) 第 144 号  
平成 23 年 10 月 3 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 慈恵  
理事長 栗原 敏

東京慈恵会医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 22 年度の業務  
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	138 人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	627人	128人	647.9人	看護補助者	32人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	9人	1人	9.3人	理学療法士	15人	臨床検査技師	105人
薬剤師	65人	1人	65.8人	作業療法士	24人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	16人	その他	0人
助産師	17人	1人	17.2人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	989人	6人	993.3人	臨床工学技士	19人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄養士	26人	その他の技術員	104人
歯科衛生士	4人	0人	4.0人	歯科技工士	0人	事務職員	206人
管理栄養士	15人	4人	17.9人	診療放射線技師	68人	その他の職員	37人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	892.3 人	0.7 人	893 人
1日当たり平均外来患者数	2,949.1 人	53.9 人	3,003 人
1日当たり平均調剤数	入院 960剤	外来 637剤	合計 1597剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
超音波骨折治療法	1人
腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	5人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術（白内障に係るものに限る）	47人
末梢血単核球移植による血管再生療法	0人
実物大臓器立体モデルによる手術支援	0人
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	16人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検(早期胃がん)	5人
パクリタキセル静脈内投与、カルボプラチン静脈内投与及びペバシズマブ静脈内投与の併用療法(これらを三週間に一回投与するものに限る。)並びにペバシズマブ静脈内投与(三週間に一回投与するものに限る。)による維持療法 再発卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	進行膵臓癌及び胆道癌に対する塩酸ゲムシタピン併用WT1ペプチドワクチン療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 標準療法である塩酸ゲムシタピンとWT1を標的としたWT1ペプチドワクチンの第I相臨床試験を平成22年度に登録終了。手術が可能となった2例を含め長期生存例と全生存期間の延長を認めた。平成23年度は第II相多施設共同臨床試験を実施中。			
医療技術名	ヘルパーT細胞を中心とした革新的免疫治療法の開発	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 Survivinヘルパーペプチドを用いた癌ワクチン療法の第I相臨床試験を北海道大学と共同で世界に先駆けて実施。当施設では類上皮肉腫に対して治療を実施。			
医療技術名	抗CP20抗体(Rituximab)を用いた脾臓摘出術を行わないABO血液型不適合腎移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ABO血液型不適合腎移植では、抗血液型抗体が関与した拒絶反応を予防するため、従来、術前後に脾臓摘出術(脾摘)が行われてきた。脾摘に伴う侵襲および長期安全性に関する懸念があり、脾摘を行わない新たな治療法としてRituximab術前投与が行われるようになり、当院でも実施している。			
医療技術名	慢性心房細動に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	約80人
当該医療技術の概要 心房細動に対して通常施行される肺静脈隔離術に加えて、3Dマッピングを併用した心房内線状焼灼術等を行っている。			
医療技術名	胸腹部大動脈瘤に対する枝付きステントグラフト内挿術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 従来では、開胸・開腹により、大動脈の血流を遮断し、人工血管置換術による治療法しか手立てが無かった胸腹部大動脈瘤に対し腹部内臓分枝にカバーステントやステントによる枝を付け、ステントグラフト内挿術による瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	遠位弓部大動脈瘤に対する頸動脈バイパス術を併施したステントグラフト内挿術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 従来では、開縦隔し、脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で適応が限られていた遠位弓部大動脈瘤に対し、頸動脈バイパス術を併施することにより、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術により瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	弓部大動脈瘤に対するRIBS(Retrograde in situ branch surgery)によるステントグラフト内挿術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 従来では、開縦隔し、脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で適応が限られていた弓部大動脈瘤に対し、RIBS(Retrograde in situ branch surgery)の手技を応用し、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術により瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	弓部大動脈瘤に対するChimney法によるステントグラフト内挿術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 従来では、開縦隔し、脳循環を維持しながら循環停止による人工血管置換術が一般的で適応が限られていた弓部大動脈瘤に対し、Chimney法の手技を応用し、循環停止することなく、ステントグラフト内挿術により瘤の空置を行う手術法。			
医療技術名	完全胸腔鏡下肺癌切除術	取扱患者数	72人
当該医療技術の概要 肺癌の根治手術が従来大きな開胸下に行われていたのに対し、小さな切開創から入れたカメラによる画像と、同じく小さな創から入れた器械により同等の手術を行う。手術の創が小さいのみならず、術後の疼痛が著しく軽く術後の合併症が少なく、回復や社会復帰が速い。術後成績も優良である。			
医療技術名	完全胸腔鏡下胸腺切除	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 従来前胸部の胸骨を大きく切開することで行われていた胸腺切除を、側胸部に数ヶ所の創のみから行う手術手技。術創が小さく、傷が目立たず、しかも回復が早い。			

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	難治気胸根治術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 高度の慢性肺疾患と肺機能低下のため開胸手術が行えなかった自然気胸に対して、胸腔鏡を用いて行う高度な手術。術後早期に退院することができ、退院後も良好な経過を取ることができる。			
医療技術名	超音波気管支鏡下生検術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 気管支周囲の占拠性病変の診断のために開発された新しい手技。気管支鏡装置に超音波診断機を組み込み、気管～気管支壁を介して超音波のガイド下に針を刺し、組織の生検を行う。			
医療技術名	膵臓がん治療におけるメシル酸ナフエモスタット動注療法と塩酸ゲムシタピン併用療法－臨床第II相試験	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 薬剤誘導性のNF-κBを抑制することで膵臓がんに対する標準治療薬である塩酸ゲムシタピンの感受性を改善する治療法。生存期間の延長とclinical benefit responseの改善がend point。			
医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 肝移植以外に治療法のない進行性不可逆性肝疾患患者に対して、根治を目的としてその健康な三親等内の血縁者あるいは配偶者から肝臓の一部の提供を受けて、生体肝移植を行う。			
医療技術名	門脈圧亢進症に対する腹腔鏡下脾臓摘出術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 門脈圧亢進症に伴う脾機能亢進症に対し、低侵襲手術である腹腔鏡下脾臓摘出術を行うことで、血小板数や白血球数の改善が得られる。これにより出血傾向が改善することで肝癌の治療や血小板数や白血球数の改善によるC型肝炎に対するインターフェロン治療の導入が可能となる。			
医療技術名	重症膀胱尿管逆流症に対するDeflux注入療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 膀胱鏡下Deflux注入療法は、軽度の症状に対して行われているが、重症例に対しても本治療を施行して、良好な結果が得られている。			
医療技術名	人工膝関節置換術におけるカスタムカッティングデバイスの研究開発	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 人工膝関節置換術において、患者個々の膝関節および骨の状態をCTならびにMRI撮像し、専用のソフトを用いて3次元的な術前計画を立て、理想的な骨と人工膝関節の設置位置に製造されたカスタムカッティングデバイスが、手術計画に合致した位置に装着できるか、術中ナビゲーション装置や専用の計測器を用いて正確性、有効性、適合性を検証し、さらに開発を行う。			
医療技術名	人工膝関節置換術におけるペイシエント・マッチド・カッティングガイドの臨床評価	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 人工膝関節置換術において、患者個々の膝関節および骨状態のデータに基づいて製造されたペイシエント・マッチド・カッティングガイドが、手術計画に合致した位置に装着できるか、その適合性について評価する。術後は単純X線像を用いて検証する。			
医療技術名	実物大臓器立体モデルによる手術支援	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 骨格に著しい変形または欠損を伴う症例において、三次元画像のみで難易度の高い手術をシミュレーションすることは困難である。これに対して、本技術は、患者の骨格の実物大であって、かつ実際の手術器具を使用した手術シミュレーションが可能な立体モデルを作製することにより、当該領域における高難度手術についての安全性および正確性が向上する。			
医療技術名	Onyx液体塞栓物質LDを用いた脳動静脈奇形塞栓術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 国内で施設限定で使用可能な液体塞栓物質を用いて、より安全な治療を施行している。			
医療技術名	頭蓋内ステントを用いた脳動脈瘤塞栓術	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 今後認可になる予定の頭蓋内ステントを用いて、広額の脳動脈瘤塞栓術を施行。			

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	イリザロフ型小型創外固定器による関節拘縮の治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 手指用の小型創外固定器を用いて、従来の方法に比較してはるかに少ない侵襲で拘縮解除が可能である画期的な方法			
医療技術名	頭蓋顔面先天異常症例における上・下顎骨切り	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 頭蓋顔面先天異常では、組織の低形成と以前の手術侵襲による瘢痕形成により、難易度の高い上・下顎同時骨切りが必要とされることが少なくない。			
医療技術名	上顎骨側方拡大術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 上顎骨発育障害に対し、骨切りと延長器装着により、側方への仮骨延長を行う新しい方法。			
医療技術名	感染性心膜炎(僧帽弁位)に対する弁形成術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 僧帽弁の感染巣を切除後、牛心膜パッチ、人工腱索、人工弁輪を用いて弁機能・形態を正常化すると共に感染を終結する			
医療技術名	角膜、結膜の扁平上皮内癌に対する5-フルオロウラシルの点眼治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 角結膜の扁平上皮癌に対する低侵襲の抗癌剤点眼治療が近年海外で注目されている。5-FUによるパルス点眼療法を我が国では当院で初めて使用を開始した。副作用もなく良好な結果をえている。			
医療技術名	非動脈炎性前部虚血性視神経症に対するウノプロストン点眼治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 非動脈炎性前部虚血性視神経症は現在有効な標準的治療法がない。本症に対して、強力な血管収縮物質であるエンドセリン-1の抑制効果を持つウノプロストンの点眼治療を開始した。当院が中央機関となり、多施設共同ランダム化並行群間比較試験として立ち上げ、現在、副作用もなく進行中である。			
医療技術名	眼内新生血管疾患および黄斑浮腫に対する抗VEGF抗体(ベバシズマブ)眼内注入治療	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 難治性眼疾患である脈絡膜新生血管、血管新生緑内障、黄斑浮腫に対して非常に高い治療効果を発揮している。			
医療技術名	中心性漿液性脈絡網膜症に対する低照射エネルギー光線力学的治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 これまで治療法が確立されていなかった中心性漿液性脈絡網膜症に対し、非常に高い治療効果が得られている。			
医療技術名	超音波ガイド下神経ブロック	取扱患者数	198人
当該医療技術の概要 上肢または下肢の神経ブロックを超音波ガイド下に専用針(超音波可視針及び神経刺激針)にて行い、場合によっては持続カテーテル挿入術後鎮痛にも使用する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	61人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	62人	・広範脊柱管狭窄症	15人
・重症筋無力症	92人	・原発性胆汁性肝硬変	169人
・全身性エリテマトーデス	225人	・重症急性膵炎	7人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	38人
・再生不良性貧血	50人	・混合性結合組織病	17人
・サルコイドーシス	53人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	11人	・特発性間質性肺炎	14人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	130人	・網膜色素変性症	87人
・特発性血小板減少性紫斑病	74人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	20人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	136人	・神経線維腫症	190人
・大動脈炎症候群	22人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	15人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	15人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	4人
・脊髄小脳変性症	28人	・ライソゾーム病	66人
・クローン病	71人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	12人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	47人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	19人
・後縦靭帯骨化症	40人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	63人	・ミトコンドリア病	4人
・ウェゲナー肉芽腫症	14人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	43人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	16人	・黄色靭帯骨化症	3人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	51人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・培養細胞による先天性代謝異常診断	
・顔面骨・頭蓋骨の観血的移動術	
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	
・腋窩リンパ節郭清術の実施前におけるセンチネルリンパ節の同定及び生検	
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定及び転移の検索	
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	57回
部 検 の 状 況	部検症例数 37 例 / 部検率 7.80%



(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	膵癌アジュバンド療法による患者選択	小井戸 薫雄	消化器・肝臓 内科	100万円	補・委 三井生命厚生事業 財団 医学研究助 成
2	進行膵臓がんに対する免疫化学療法	小井戸 薫雄	消化器・肝臓 内科	300万円	補・委 財団法人がん研究 振興財団 平成21 年度第42回がん研 究助成金
3	ヘルパーT細胞を中心とした革新的 免疫治療法の開発	小井戸 薫雄 (研究分担)	消化器・肝臓 内科	200万円	補・委 NEDO 技術開発機構 基礎研究から臨床 研究への橋渡し促 進技術開発/橋渡 し促進技術開発
4	癌胎児性抗原を利用した肝がんの超 早期診断法と発症予防ワクチンの開 発	小井戸 薫雄 (研究分担)	消化器・肝臓 内科	100万円	補・委 厚生労働科学研究 費補助金(肝炎等 克服緊急対策 研究 事業)
5	iPS細胞ワクチンを用いた腫瘍血管標 的免疫療法研究代表者	小井戸 薫雄 (研究分担)	消化器・肝臓 内科	10万円	補・委 文部科学省科学研 究費 挑戦的萌芽 研究
6	機能的ペプチド配列から構成される 人工蛋白質を用いた腫瘍免疫法の開 発	小井戸 薫雄 (研究分担)	消化器・肝臓 内科	5万円	補・委 文部科学省科学研 究費 挑戦的萌芽 研究
7	医学と工学の癒合による自己幹細胞 由来腎臓再生法の実現化	横尾 隆	腎臓・高血圧 内科	830万円	補・委 文部科学省科研 費、新学術課題
8	カルシウムチャンネルを標的とした二 次性副甲状腺機能亢進症治療基盤の 構築	横山 啓太郎	腎臓・高血圧 内科	110万円	補・委 文部科学省科研 費、基盤研究 (C)
9	BMP4の糸球体血管系蹄発生と尿細管 成長維持における役割	宮崎 陽一	腎臓・高血圧 内科	50万円	補・委 文部科学省科研 費、基盤研究 (C)
10	異種胎児の後腎組織を足場としたヒ ト腎臓再生法の開発	横尾 隆	腎臓・高血圧 内科	80万円	補・委 文部科学省科研 費、基盤研究 (C)
11	破骨細胞阻害因子ノックアウトマウ スのリン調節の解明	大城戸 一郎	腎臓・高血圧 内科	60万円	補・委 文部科学省科研 費、若手研究 (B)
12	透析患者の冠動脈石灰化の組織学的 検討	吉田 啓	腎臓・高血圧 内科	30万円	補・委 文部科学省科研 費、若手研究 (B)
13	ニワトリ胚を用いた新規腎臓再生法 の開発	福井 亮	腎臓・高血圧 内科	80万円	補・委 文部科学省科研 費、若手研究 (B)
14	核内レセプターの新規機能解析と構 造情報に基づいた線維化疾患治療法 の開発	横山 啓太郎	腎臓・高血圧 内科	1000万円	補・委 文部科学省ター ゲットタンパク研 究

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
15	高齢者における薬物性腎障害の調査	細谷 龍男	腎臓・高血圧 内科	150万円	補・委 厚労科研費腎疾患 対策研究事業
16	Calciphylaxisの診断・治療に関わる 調査・研究	細谷 龍男	腎臓・高血圧 内科	75万円	補・委 厚労科研費難治性 疾患克服研究事業
17	IgA腎症に関する多施設共同研究	川村 哲也	腎臓・高血圧 内科	200万円	補・委 厚労科研費難治性 疾患克服研究事業
18	Calciphylaxisの診断・治療に関わる 調査・研究	川村 哲也	腎臓・高血圧 内科	60万円	補・委 厚労科研費難治性 疾患克服研究事業
19	小児ネフローゼ症候群に対する初期 治療確立を目指した多施設共同臨床 研究と拡大臨床試験体制整備	川村 哲也	腎臓・高血圧 内科	20万円	補・委 厚労科研費小児疾 患臨床研究事業
20	慢性腎臓病に対する包括的腎臓リハ ビリテーション療法の取り組み	宇都宮 保典	腎臓・高血圧 内科	100万円	補 委 東京都難病専門研 究
21	ポリアミンとエリスロポエチン抵抗 性腎性貧血に関する臨床研究	丸山 之雄	腎臓・高血圧 内科	100万円	補 委 上原記念生命科学 財団
22	動脈硬化性疾患の危険因子の性差と 予防に関する予防に関するコホート 研究	吉村 道博	循環器内科	100万円	補 委 厚生労働科学研究 費補助金 循環器 疾患・糖尿病等生 活習慣病対策総合 研究事業
23	特発性心筋症に関する調査研究	吉村 道博	循環器内科	30万円	補 委 厚生労働省 難治 性疾患克服研究事 業
24	循環器疾患におけるアルドステロン の病態生理学的研究	吉村 道博	循環器内科	130万円	補 委 文部科学省科研費 基盤研究C
25	心臓におけるアルドステロンのイン スリンシグナルを介した生理及び病 態生理作用の解明	名越 智古	循環器内科	143万円	補 委 文部科学省科研費 若手研究B
26	心不全における炎症のメカニズム解 明(12リポキシゲナーゼとアルド ステロンの検討)	香山 洋介	循環器内科	247万円	補 委 文部科学省科研費 若手研究B
27	睡眠医療における医療機関連携ガイ ドラインの有効性検証に関する研究	伊藤 洋	精神神経科	50万円	補 委 厚生労働省 精 神・神経疾患研究 委託費
28	脳内報酬系の制御機構からみたニコ チン依存の病態解明と、制御機構に 作用する新規依存治療薬の研究	宮田 久嗣	精神神経科	200万円	補 委 財団法人 喫煙科 学研究財団研究助 成金

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
29	不規則勤務による睡眠のミクロ構造上変化と精神状態および機能	小曾根 基裕	精神神経科	170万円	補・委 文部科学省研究費補助金 基盤研究(C)
30	精神科医療における発達精神医学的支援に関する研究	小野 和哉	精神神経科	40万円	補・委 厚生労働省 精神・神経疾患研究委託費
31	認知症の長期予後に関する疫学的研究	角 徳文	精神神経科	160万円	補・委 文部科学省研究費補助金 基盤研究(C)
32	休職に至った就労者の職場復帰に影響を及ぼす背景因子について	中村 晃士	精神神経科	50万円	補・委 文部科学省研究費補助金 若手研究(B)
33	かかりつけ医のための認知症の鑑別診断と疾患別治療に関する研究	品川 俊一郎	精神神経科	150万円	補・委 厚生労働省 認知症対策総合研究事業
34	左心不全ラットの脳における神経内分泌学的研究	宮田 市郎	小児科	2,470,000円 (うち間接経費: 570,000円)	補・委 文部科学省研究費補助金基盤研究(C)
35	頭頸部がんにおける表皮成長因子受容体ファミリー遺伝子の変異解析とその薬剤感受性	湯坐 有希	小児科	1,430,000円	補・委 文部科学省研究費補助金基盤研究(C)
36	母体葉酸投与に起因する胎児遺伝子メチル化修飾の組織特異的全ゲノム解析	河野 淳子	小児科	1,560,000円	補・委 文部科学省研究費補助金若手研究(B)
37	右心不全モデルラットを用いた右心不全の生理学的特徴を加味した治療法の確立	浦島 崇	小児科	910,000円	補・委 文部科学省研究費補助金若手研究(B)
38	小児気管支喘息重症発作に対するイソプロテノール持続吸入療法の検討:サルブタモール持続吸入療法を対照とした多施設共同盲検ランダム化比較試験	勝沼 俊雄	小児科	42,512,000円(うち間接経費 9,811,000円)	補・委 厚生労働省 医療技術実用化総合研究事業(臨床研究・予防・治療技術開発研究事業)
39	膵臓癌化学療法耐性克服に向けた基礎的研究	宇和川 匡	外科	200万	補・委 加藤記念バイオサイエンス研究振興財団
40	膵臓癌に対するアデノウイルスベクターを用いたTNF- $\alpha$ 腫瘍内導入およびメシル酸ナファモスタット併用化学療法の検討	古川 賢英	外科	50万	補・委 膵臓病研究財団
41	チタン細繊維を用いた靭帯・骨接合部の再建	丸毛 啓史	整形外科	130万円	補・委 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)
42	原発性骨粗鬆症に対する骨密度・骨質同時評価によるテーラーメイド治療の確立	斎藤 充	整形外科	104万円	補・委 文部科学省科学研究費 基盤研究(C)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
43	非侵襲的骨質評価法の確立	木田 吉城	整形外科	247万円	補・委 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)
44	Wnt非古典経路を阻害する新規骨代謝改善薬の分子メカニズムの解明	前田 和洋	整形外科	119万円	補・委 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C)
45	慢性閉塞性肺疾患(COPD)における骨脆弱化機序の解明 -全身性(骨・肺・血管・皮膚・血液・尿)コラーゲン分析をもとにしたバイオマーカーの確立-	斎藤 充	整形外科	100万円	補・委 日本総合健診医学会 学術奨励助成
46	非侵襲的骨質評価法の確立 -皮膚・尿・血AGEs測定値と骨AGEs量との相関性の検討	木田 吉城	整形外科	50万円	補・委 日本イーライリリー 研究助成金
47	再生工学的手法を用いた再生膝前十字靭帯再建術の試み	加藤 壮紀	整形外科	50万円	補・委 日本イーライリリー 研究助成金
48	グリオーマ幹細胞と樹状細胞の融合細胞を用いた活性型グリオーマワクチンの開発	赤崎 安晴	脳神経外科	45万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金
49	抗リン脂質抗体による子宮内胎児発育遅延の病態解明 ” IUGRモデルマウスを用いて”	田中 忠夫	産婦人科	200万円	補・委 東京都産婦人科医会 おぎやー献金基金
50	精神・神経疾患研究開発費	田中 忠夫	産婦人科	70万円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金
51	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業	田中 忠夫	産婦人科	70万円	補・委 厚生労働省科学研究費補助金
52	早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立	颯川 晋	泌尿器科	40万円	補・委 厚生労働科学研究費助成金「がん臨床研究事業」
53	高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	颯川 晋	泌尿器科	25万円	補・委 厚生労働科学研究費助成金「がん臨床研究事業」
54	ホルモン抵抗性前立腺癌に対する遺伝子治療の開発	清田 浩	泌尿器科	39万円	補・委 文部科学省研究補助金 (基盤研究 C)
55	骨髄における下部尿路機能を制御する神経伝達物質治療薬の探求	古田 昭	泌尿器科	182万円	補・委 文部科学省研究補助金 (基盤研究 C)
56	新規日本人由来前立腺癌細胞株を用いたホルモン抵抗性獲得基序の解明	木村高弘	泌尿器科	208万円	補・委 文部科学省研究補助金 (若手研究 (B))

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
57	輝度情報処理のダイナミズムと羞明のメカニズムの解明	堀口 浩史	眼科	60万円(間接経費なし)	補・委 文部科学省・科学研究費補助金(特別研究員奨励費)
58	血管新生疾患の分子機構解明と治療に関する研究	林 孝彰	眼科	900万円	補・委 公益財団法人・車両競技公益資金記念財団
59	緊張部型中耳真珠腫の成因・進展機序の解明、予防と手術的治療に関する研究	森山 寛	耳鼻咽喉科	140万円	補・委 文部科学省科学研究費、基盤研究(C)
60	人工中耳粘膜移植とドラックデリバリーシステムの融合による新しい鼓室形成術式の研究	小島 博己	耳鼻咽喉科	50万円	補・委 文部科学省科学研究費、基盤研究(C)
61	立体画像表示システムを用いた副鼻腔ステレオナビゲーション手術術式の研究	鴻 信義	耳鼻咽喉科	110万円	補・委 文部科学省科学研究費、基盤研究(C)
62	組織再生工学を用いた人工鼓膜の作成と中耳真珠腫の病態解明	田中 康広	耳鼻咽喉科	110万円	補・委 文部科学省科学研究費、基盤研究(C)
63	エピジェネティック解析に基づく慢性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略の開発	吉川 衛	耳鼻咽喉科	80万円	補・委 文部科学省科学研究費、基盤研究(C)
64	空中浮遊微生物(真菌、黄色ブドウ球菌)による好酸球性副鼻腔炎の発症とその病態解明	松脇 由典	耳鼻咽喉科	130万円	補・委 文部科学省科学研究費、基盤研究(C)
65	中耳粘膜の血流動態が中耳腔全圧に及ぼす影響に関する研究	内水 浩貴	耳鼻咽喉科	40万円	補・委 文部科学省科学研究費、若手研究(B)
66	真菌、特にAlternariaの自然免疫抑制効果について-樹状細胞を用いた実験-	和田 弘太	耳鼻咽喉科	90万円	補・委 文部科学省科学研究費、若手研究(B)
67	好酸球性副鼻腔炎の病態解明-制御性T細胞とIL-17産生性T細胞の関与について-	浅香 大也	耳鼻咽喉科	20万円	補・委 文部科学省科学研究費、若手研究(B)
68	立体画像表示を用いた内視鏡下鼻内手術トレーニングシステムの開発	飯村 慈朗	耳鼻咽喉科	90万円	補・委 文部科学省科学研究費、若手研究(B)
69	マイクロダイセクションを用いた発生中の血管条におけるメラノサイト分化誘導機構探索	小林 俊樹	耳鼻咽喉科	140万円	補・委 文部科学省科学研究費、若手研究(B)
70	リハ実施は移植神経幹細胞の生着率・分化に影響し、脳卒中後の麻痺回復を促進するか	安保 雅博	リハビリテーション科	60万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
71	上肢麻痺に対して最も有効な治療戦略とは？～TMS・tDCSと集中的作業療法の併用	角田 亘	リハビリテーション科	65万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)
72	トロミ水を用いた嚥下障害評価に関する検討	百崎 良	リハビリテーション科	50万円	委補・ やずや 食と健康研究所
73	食品物性と嚥下動態：新たなスクリーニング検査の開発	百崎 良	リハビリテーション科	78万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金若手研究 (B)
74	毒素感受性肝炎モデルマウスとパイオ人工肝臓を用いた肝性脳症惹起蛋白質の同定	松浦 知和	臨床検査医学講座	182万円	補・委 (独) 日本学術振興会科学研究費助成事業 (科学研究費補助金)
75	TGF-β活性化反応を標的とした肝疾患の新規診断法、治療、予防法の開発のための臨床研究	松浦 知和	臨床検査医学講座	857万2千円	補・委 (独) 医薬基盤研究所
76	高分化型三次元細胞培養系を用いたヒト血漿蛋白及びウイルス粒子の大量産生法の開発	松浦 知和	臨床検査医学講座	70万円	補・委 (財) ヒューマンサイエンス振興財団 政策創薬総合研究事業
77	新たなマウス肺高血圧モデルの作成とRNA干渉を利用した治療法の開発	上園 晶一	麻酔部	130万	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)
78	癌性疼痛におけるモルヒネ長期髄腔内投与の副作用についての研究	近藤 一郎	麻酔部	169万	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)
79	麻酔薬ポストコンディショニングにおける心筋ミトコンドリア保護効果に関する研究	三尾 寧	麻酔部	377万	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)
80	心臓外科手術患者のビタミンD濃度およびビタミンD受容体遺伝子多型と重症度の関連	讃井 将満	集中治療部	582万	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)
81	内視鏡機器・デバイスの開発及び早期臨床試験に関する研究	加藤 智弘	内視鏡科	250万円	補・委 独立行政法人国立がん研究センター研究開発費
82	低侵襲的低周波超音波脳血栓溶解法の効果増高に関する臨床応用基盤研究	古幡 博 小川 武希 他	総合医科学研究センター 医用エンジニアリング研究室, 救急科 他	95,085,000 万円 (うち間接経費 21,942,000 万円)	補・委 厚生労働科学研究費
83	急性脳梗塞治療における経頭蓋超音波脳血栓溶解装置の実用化	古幡 博 小川 武希 他	総合医科学研究センター 医用エンジニアリング研究室, 救急科 他	0円	補・委 科学技術振興機構

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
84	新生児輸血療法の安全性、有効性、効率性の向上に関する研究	星 順隆	輸血部	440万円	補・委 厚生労働省科学研究費
85	医療機関内輸血副作用監視体制に関する研究	田崎 哲典	輸血部	100万円	補・委 厚生労働省科学研究費
86	赤血球製剤の有効期間を6週間に戻すことの医学的、社会的意義	田崎 哲典	輸血部	130万円（うち間接経費30万円）	補・委 文部科学省科研費（基盤研究C）
87					補・委
88					補・委
89					補・委
90					補・委

合計 86 件

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記す
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Clinical and Developmental Immunology 2010:516768	Regulation of tumor immunity by tumor/dendritic cell fusions.	Koido S, Homma S, Hara E, Namiki Y, Takahara A, Komita H, Nagasaki E, Ito M, Ohkusa T, Gong J, Tajiri H	消化器・肝臓内科
2	Journal of Immunotherapy. 2010 33 467-74	Combined treatment with dendritic cells and 5-fluorouracil elicits augmented NK cell-mediated antitumor activity through the tumor necrosis factor- $\alpha$ pathway.	Nagasaki E, Takahara A, Koido S, Sagawa Y, Aiba K, Tajiri H, Yagita H, Homma S	消化器・肝臓内科
3	Journal of Biomedicine and Biotechnology 2010:752381	Antigen-specific polyclonal cytotoxic T lymphocytes induced by fusions of dendritic cells and tumor cells.	Koido S, Homma S, Hara E, Namiki Y, Ohkusa T, Gong J, Tajiri H.	消化器・肝臓内科
4	Clinical Immunology 2010 Jun;135 384-400.	Dendritic/pancreatic carcinoma fusions for clinical use: Comparative functional analysis of healthy- versus patient-derived fusions.	Koido S, Hara E, Homma S, Namiki Y, Komita H, Takahara A, Nagasaki E, Ito M, Sagawa Y, Mitsunaga M, Uchiyama K, Satoh K, Arihiro S, Ohkusa T, Gong J, Tajiri H.	消化器・肝臓内科
5	International Journal of Cancer. 2010 Dec 10. [Epub ahead of print]	Induction of cytotoxic T lymphocytes against ovarian cancer-initiating cells.	Weng D, Song B, Durfee J, Sugiyama V, Wu Z, Koido S, Calderwood SK, Gong J	消化器・肝臓内科
6	Inflammatory Bowel Diseases 2010 16 1696-707	n-3 polyunsaturated fatty acid diet therapy for patients with inflammatory bowel disease.	I. Uchiyama K, Nakamura M, Odahara S, Koido S, Katahira K, Shiraishi H, Ohkusa T, Fujise K, Tajiri H	消化器・肝臓内科
7	Cell Fusions. Regulation and Control 2011 315-350	Cell fusion and dendritic cell based vaccines	I. Gong J and Koido S	消化器・肝臓内科
8	J. Neurol 2010; 257:969-76.	Olfactory dysfunction and cardiovascular dysautonomia in Parkinson's disease.	Oka H, Toyoda C, Yogo M, Mochio S.	神経内科
9	Eur J Neurol 2011; 18:286-92.	Cardiovascular dysautonomia in de novo Parkinson's disease without orthostatic hypotension.	Oka H, Toyoda C, Yogo M, Mochio S.	神経内科
10	J Neuroscience 2010 ; 30 : 13045-13052.	Genetic deletion of paired immunoglobulin-like receptor B does not promote axonal plasticity or functional recovery after traumatic brain injury.	Omoto S, Ueno M, Mochio S, Takai T, Yamashita T.	神経内科



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
11	Neuroscience Research 2011 ; 69 : 187-195.	Corticospinal tract fibers cross the ephrin-B3-negative part of the midline of the spinal cord after brain injury.	Omoto S, Ueno M, Mochio S, Yamashita T.	神経内科
12	J Neurol Sci 2010 ; 295 : 128-130.	Are hypersegmented neutrophils a characteristic of Boucher-Neuhäuser syndrome?	Umehara T, Yaguchi H, Suzuki M, Isozaki E, Mochio S.	神経内科
13	Sleep Med. 2010; 11:100- 1.	Follow-up PET studies in case of idiopathic REM sleep behavior disorder.	Miyamoto T, Orimo S, Miyamoto M, Hirata K, Adachi T, Hattori R, Suzuki M, Ishii K.	神経内科
14	Neuroradiology Journal in press 2010.	Striatal distribution of dopamine transporters and dopamine D2 receptors at different stages of Parkinson's disease - A CFT and RAC PET study-	Mishina M, Ishii K, Suzuki M, Kitamura S, Ishibashi K, Sakata M, Oda K, Hamamoto M, Kominami S, Kobayashi S, Katayama Y, Ishiwata K.	神経内科
15	PLoS ONE 2010; 6.	Adenosine A2A Receptors Measured with [11C]TMSX PET in the Striata of Parkinson's Disease Patients.	Mishina M, Ishiwata K, Naganawa M, Kimura Y, Kitamura S, Suzuki M, Hashimoto M, Ishibashi K, Oda K, Sakata M, Hamamoto M, Kobayashi S, Katayama Y, Ishii K.	神経内科
16	臨床神経 2011 ; 51 : 345- 9.	Rituximabによる治療が有効であった抗MAG抗体関連ニューロパチーの61歳女性例.	下山隆, 谷口洋, 仙石 錬平, 松野博優, 三村 秀毅, 河野優, 持尾聰 一郎.	神経内科
17	末梢神経 2010 ; 21 : 91-9.	Guillain-Barré症候群における聴神経障害の神経生理学的特徴.	鈴木可奈子, 河野優, 田村洋平, 谷口洋, 持 尾聰一郎.	神経内科
18	臨床神経生理学2010 ; 38 : 379-384.	糖尿病性末梢神経障害の早期発見における足部神経伝導検査の有用性.	松尾賢典, 栗田正, 田 中淳子, 阿部郁朗, 海 渡健.	神経内科
19	Nehpron Clin Pract 2011;118:c292-300.	A predictive clinical grading system for immunoglobulin A nephropathy by combining proteinuria and estimated glomerular filtration rate.	Okonogi H, Utsunomiya Y, Miyazaki Y, Koike K, Hirano K, Tsuboi N, Suzuki T, Hara Y, Ogura M, Hosoya T, Kawamura T.	腎臓・高血圧 内科
20	Clin Nephrol. 2011 Jan;75(1):1-7.	Difference in coronary artery intima and media calcification in autopsied patients with chronic kidney disease.	Yoshida H, Yokoyama K, Yaginuma T, Ohkido I, Yamamoto H, Utsunomiya Y, Kawakami M, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2. 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
21	Ther Apher Dial. 2010 Oct;14(5):477-82.	Low-grade endotoxemia contributes to chronic inflammation in hemodialysis patients: examination with a novel lipopolysaccharide detection method	Terawaki H, Yokoyama K, Yamada Y, Maruyama Y, Iida R, Hanaoka K, Yamamoto H, Obata T, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
22	Ther Apher Dial. 2010 Oct;14(5):465-71.	The redox state of albumin and serious cardiovascular incidence in hemodialysis patients.	Terawaki H, Takada Y, Era S, Funakoshi Y, Nakayama K, Nakayama M, Ogura M, Ito S, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
23	Nephrol Dial Transplant. 2011 Feb;26(2):753-4; author reply 754-5.	Peritoneal clearance and transport of methylglyoxal.	Terawaki H, Nakao M, Nakayama K, Nakayama M, Kimura A, Takane K, Mitome J, Hamaguchi A, Ogura M, Yokoyama K, Ito S, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
24	Nihon Jinzo Gakkai Shi. 2010;52(7):945-51. Japanese.	CCB uptitration is superior to ARB uptitration in CKD patients who do not reach target blood pressure with ARB/CCB combined therapy.	Ishii T, Kawamura T, Tsuboi N, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
25	Int J Clin Pharmacol Ther. 2010 Nov;48(11):751-5.	Effects of probenecid on the pharmacokinetics of mizoribine and co-administration of the two drugs in patients with nephrotic syndrome.	Utsunomiya Y, Hara Y, Ito H, Okonogi H, Miyazaki Y, Hashimoto Y, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
26	Clin Exp Nephrol. 2011 Feb;15(1):175-8.	Augmented antihypertensive effect of a fixed combination formula of candesartan and hydrochlorothiazide combined with furosemide in a patient on peritoneal dialysis.	Kuriyama S, Otsuka Y, Ueda H, Sugano N, Yoshizawa T, Yamada T, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
27	Pathol Int. 2010 Nov;60(11):744-9.	Medullary ray injury in renal allografts.	Kobayashi A, Yamamoto I, Ito S, Akioka Y, Yamamoto H, Teraoka S, Hattori M, Tanabe K, Hosoya T, Yamaguchi Y.	腎臓・高血圧 内科
28	Clin Nephrol. 2010 Sep;74(3):209-16.	Clinical impact of a combined therapy of peritoneal dialysis and hemodialysis.	Matsuo N, Yokoyama K, Maruyama Y, Ueda Y, Yoshida H, Tanno Y, Yamamoto R, Terawaki H, Ikeda M, Hanaoka K, Yamamoto H, Ogura M, Watanabe S, Kimura Y, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
29	Hum Pathol. 2010 Dec;41(12):1682-93.	Activation of the transcription factor c-Jun in acute cellular and antibody-mediated rejection after kidney transplantation.	Kobayashi A, Takahashi T, Horita S, Yamamoto I, Yamamoto H, Teraoka S, Tanabe K, Hosoya T, Yamaguchi Y.	腎臓・高血圧 内科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
30	Clin Transplant. 2010 Jul;24 Suppl 22:48-53.	Successful treatment of recurrent focal segmental glomerulosclerosis combined with calcineurin inhibitor nephrotoxicity four yr after kidney transplantation.	Mitome J, Yamamoto H, Maruyama Y, Kobayashi A, Yaginuma T, Matsuo N, Tanno Y, Hayakawa H, Miyazaki Y, Yokoyama K, Utsunomiya Y, Yamaguchi Y, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
31	Clin Exp Nephrol. 2010 Oct;14(5):492-5.	Rapidly progressive cryoglobulinemic glomerulonephritis.	Tsuboi N, Ichinose M, Kawamura T, Joh K, Utsunomiya Y, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
32	Artif Organs. 2010 Aug;34(8):642-7.	A thermoreversible polymer mediates controlled release of glial cell line-derived neurotrophic factor to enhance kidney regeneration.	Gheisari Y, Yokoo T, Matsumoto K, Fukui A, Sugimoto N, Ohashi T, Kawamura T, Hosoya T, Kobayashi E.	腎臓・高血圧 内科
33	Kidney Int. 2010 May;77(10):928; author reply 928-9.	Should the targeted value of the phosphate be reviewed in the normal range from the viewpoint of vascular calcification?	Yokoyama K, Yoshida H, Maruyama Y, Ozaki A, Yamamoto H, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
34	Nephron Clin Pract. 2010;115(4):c237-43.	L-type voltage-dependent calcium channel alpha subunit 1C is a novel candidate gene associated with secondary hyperparathyroidism: an application of haplotype-based analysis for multiple linked single nucleotide polymorphisms.	Yokoyama K, Urashima M, Ohkido I, Kono T, Yoshida T, Muramatsu M, Niu T, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
35	Kidney Int. 2010 Apr;77(8):743; author reply 743-4.	The hypothesis that bone turnover influences FGF23 secretion.	Ohkido I, Yokoyama K, Kagami S, Hosoya T.	腎臓・高血圧 内科
36	ARTHRITIS & RHEUMATISM Vol. 62, No. 12, December 2010, pp3751-3759	Fasciitis as a Common Lesion of Dermatomyositis, Demonstrated Early After Disease Onset by En Bloc biopsy Combined With Magnetic Resonance Imaging	Ken Yoshida, Daitarokur osaka, Kensuke Joh, Sato shi Matushima, Eigo takahashi, Kenichiro Hiarai, Kent aro Noda, Taro Ukichi, Kazuhiro Furuya, Maimi Yanagiachi, Isamu Kingetu, Kunihiro Fukuda, and Akio Yamada	リウマチ・膠 原病内科
37	J Rheumatol 2010; Jun;37(6):1121-8	et al. Clinical significance of serum levels of vascular endothelial growth factor, angiotensin-1, and angiotensin-2 in patients with rheumatoid arthritis.	Kurosaka d, Hirai k, Nishioka M, Miyamoto Y, Yoshida K, Noda K,	リウマチ・膠 原病内科

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
38	Nihon Rinsho Meneki Gakkai Kaishi 2010;33(1):37-41	Onset of modified measles after etanercept treatment in rheumatoid arthritis	Tkashashi E, Kurosaka D, Yoshida K, Yanagimachi M, Kingetu I, Yamada A,	リウマチ・膠原病内科
39	Heart 2011;97:137-42	Relationship between renal function and the risk of recurrent atrial fibrillation following catheter ablation.	Tokuda M, Yamane T, Matsuo S, Ito K, Narui R, Hioki M, Tanigawa SI, Nakane T, Yamashita S, Inada K, Shibayama K, Miyanaga S, Yoshida H, Miyazaki H, Date T, Yokoo T, Yoshimura M.	循環器内科
40	Clin Exp Hypertens 2010;32(5):270-7	Association of uric acid with risk factors for chronic kidney disease and metabolic syndrome in patients with essential hypertension.	Seki S, Tsutsui K, Fujii T, Yamazaki K, Anzawa R, Yoshimura M.	循環器内科
41	Am J Physiol Heart Circ Physiol 2010;298:H1902-7	Role of Ca <sup>2+</sup> /calmodulin-dependent protein kinase II in the regulation of the cardiac L-type Ca <sup>2+</sup> current during endothelin-1 stimulation.	Komukai K, O-Uchi J, Morimoto S, Kawai M, Hongo K, Yoshimura M, Kurihara S.	循環器内科
42	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst 2010;11(2):124-6	Synergistic inhibitory effect of angiotensin II receptor blocker and thiazide diuretic on the tissue renin-angiotensin-aldosterone system.	Yoshimura M, Kawai M.	循環器内科
43	Am Heart J 2010;160(2):337-45	Comparison of the clinical outcome after pulmonary vein isolation based on the appearance of adenosine-induced dormant pulmonary vein conduction.	Matsuo S, Yamane T, Date T, Hioki M, Ito K, Narui R, Tanigawa S, Nakane T, Hama Y, Tokuda M, Yamashita S, Aramaki Y, Inada K, Shibayama K, Miyanaga S, Yoshida H, Miyazaki H, Abe K, Sugimoto K, Taniguchi I, Yoshimura M.	循環器内科
44	Int J Hematol. 2011 Mar;93(3):344-50.	Rapid progression and unusual premortal diagnosis of mucormycosis in patients with hematologic malignancies: analysis of eight patients.	Yano S, Minami J, Nishiwaki K, Shimada T, Dobashi N, Yahagi Y, Takei Y, Takahara S, Ogasawara Y, Sugiyama K, Yamaguchi Y, Saito T, Kasama K, Yokoyama H, Machishima T, Katsube A, Usui N, Aiba K.	腫瘍・血液内科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
45	J Immunother. 2010 Jun;33(5):467-74.	Combined treatment with dendritic cells and 5-fluorouracil elicits augmented NK cell-mediated antitumor activity through the tumor necrosis factor-alpha pathway.	Nagasaki E, Takahara A, Koido S, Sagawa Y, Aiba K, Tajiri H, Yagita H, Homma S.	腫瘍・血液内科
46	Gan To Kagaku Ryoho. 2010 Jul;37(7):1277-82.	High-dose methotrexate followed by whole-brain irradiation for primary central nervous system lymphoma patients--a retrospective study in a single institute	Usui N, Dobashi N, Yano S, Yahagi Y, Takei Y, Otsubo H, Takahara S, Yamaguchi Y, Saito T, Minami J, Kamiyama Y, Morikawa N, Machishima T, Osawa H, Aiba K.	腫瘍・血液内科
47	J Clin Exp Hematop. 2010;50(2):143-9.	Two cases of mediastinal gray zone lymphoma.	Minami J, Dobashi N, Asai O, Yano S, Osawa H, Takei Y, Yahagi Y, Takahara S, Ogasawara Y, Yamaguchi Y, Kobayashi T, Morikawa N, Nikaido T, Usui N, Aiba K.	腫瘍・血液内科
48	Liaison	女性のうつ病—ライフステージに応じた治療	中山 和彦	精神神経科
49	日本医事新報	うつ病再発予防のための心理教育	忽滑谷 和孝	精神神経科
50	睡眠医療	不眠のメカニズムと不眠治療の実際	山寺 亘、伊藤 洋	精神神経科
51	Geriatric Medicine	【知っておきたい高齢者の睡眠医療】 ノンレム睡眠の新しい評価指標 Cyclic alternating pattern	小曾根 基裕、八木 朝子、青木 公義、伊藤 洋	精神神経科
52	こころのりんしょう a・la・carte	統合失調症の歴史 その治療と仮説が語るもの(解説/特集)	小野 和哉、中山 和彦	精神神経科
53	臨床精神医学	社交不安障害と対人恐怖症—森田療法の視点	塩路 理恵子、中村 敬	精神神経科
54	精神神経学雑誌	精神医学のフロンティア アルツハイマー病患者におけるFrontal Assessment Battery (FAB) スコア低下と妄想的観念の関連性[in Japanese] Correlation between a reduction in Frontal Assessment Battery scores and delusional thoughts in patients with Alzheimer's disease[in Japanese]	永田 智行、品川 俊一郎、笠原 洋勇、中山 和彦	精神神経科
55	第4章産業メンタルヘルス 4. 職場におけるパーソナリティ障害	産業医ガイド. 日本産業衛生学会関東産業医部会編.	中村 晃士	精神神経科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
56	専門医のための精神科臨床 リュミエール 12. 前頭側頭 型認知症の臨床	前頭側頭型認知症の食行動異常	品川 俊一郎	精神神経科
57	Mol Genet Metab. 2010; 100(1):14-9.	Prognostic factors for the late onset Pompe disease with enzyme replacement therapy: from our experience of 4 cases including an autopsy case.	Kobayashi H, Shimada Y, Ikegami M, Kawai T, Sakurai K, Urashima T, Ijima M, Fujiwara M, Kaneshiro E, Ohashi T, Etoh Y, Ishigaki K, Osawa M, Kyosen SO, Ida H.	小児科
58	Pediatr Neurol 2010;42:65-68	Gaucher Disease Patient With Myoclonus Epilepsy and a Novel Mutation	Tajima A, Ohashi T, Hamano S, Higurashi N, Ida H.	小児科
59	Mol Genet Metab. 2010 ; 99 : 18-25	Japan Elaprse Treatment (JET) Study Idursulfase enzyme replacement therapy in adult patients with attenuated Hunter syndrome (Mucopolysaccharidosis II, MPS II)	Okuyama T, Tanaka A, Suzuki Y, Tanaka T, G. F.Cox, Eto Y, Orii T, Ida H.	小児科
60	Proc Natl Acad Sci U S A. 2010;107(17):7886-91.	Induced pluripotent stem cells derived from mouse models of lysosomal storage disorders.	Meng XL, Shen JS, Kawagoe S, Ohashi T, Brady RO, Eto Y.	小児科
61	Gene Therapy. 2010;17:521- 30.	Neonatal gene transfer using lentiviral vector for murine Pompe disease: long term expression and glycogen reduction.	Kyosen OS, Iizuka S, Kobayashi H, Kimura T, Fukuda T, Shen JS, Shimada Y, Ida H, Eto Y, Ohashi T.	小児科
62	Leukemia 2010; 24: 383- 396.	Long-term results of Tokyo Children' s Cancer Study Group trials for childhood acute lymphoblastic leukemia, 1984-1999.	Tsuchida M, Ohara A, Manabe A, Kumagai M, Shimada H, Kikuchi A, Mori T, Saito M, Akiyama M, Fukushima T, Koike K, Shiobara M, Ogawa C, Kanazawa T, Noguchi Y, Oota S, Okimoto Y, Yabe H, Kajiwara M, Tomizawa D, Ko K, Sugita K, Kaneko T, Maeda M, Inukai T, Goto H, Takahashi H, Isoyama K, Hayashi Y, Hosoya R, Hanada R on behalf of Tokyo Children' s Cancer Study Group.	小児科
63	Jpn J Pediatr Hematol 2010; 24: 43-46.	Disseminated Absidia corymbifera infection in a 14-year-old girl with Burkitt lymphoma (stage IV).	Yamaoka M, Akiyama M, Yuza Y, Yokoi K, Yokokawa Y, Matsushima S, Fujigasaki J, Chiba S, Kohno M, Ida H.	小児科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
64	Pediatrics International. 2010; 52:319-326	Japanese pediatric guidelines for the treatment and management of bronchial asthma 2008.	Naomi Kondo, Toshiyuki Nishimuta, Sankei Nishima, Akihiro Morikawa, Yukoh Aihara, Toru Akasaka, Akira Akasaka, Yuichi Adachi, Hirokazu Arakawa, Takao Ikarashi, Toshiichi Ikebe, Toshishige Inoue, Tsutomu Iwata, Atsuo Urisu, Motohiro Ebisawa, Yukihiro Ohya, Kenji Okada, Hiroshi Odajima, Toshio Katsunuma, Makoto Kameda, Kazuyuki Kurihara, Yoichi Kohno, Tatsuo Sakamoto, Naoki Shimojo, Yutaka Suehiro, Kenichi Tokuyama, Mitsuhiko Nambu, Yuhei Hamasaki, Takao Fujisawa, Takehiko Matsui, Tomoyo Matsubara, Mitsufumi Mayumi, Tokuko Mukoyama, Hiroyuki Mochizuki, Koichi Yamaguchi and Shigemi Yoshihara	小児科
65	Pediatric Pulmonology. 2010; 45:1005-1008.	Comparison of Exhalation Time Methods(6 sec vs.10 sec)of a Hand-Held Exhaled Nitric Oxide Analyzer	6. Yasunori Ito, Yuichi Adachi, Toshiko Itazawa, Yoshie Okabe, Yoko S. Adachi, Toshio Katsunuma and Toshio Miyawaki	小児科
66	Endovascular Today 2010; 9(1):46-48.	EVAR takes root in Japan.	Ohki T.	外科
67	Endovascular Today 2010; 9(5):14.	Cordis Incraft System Studied in INNOVATION.	Ohki T.	外科
68	Endovascular Today 2010; 9(6):22.	Terumo's Misago Stent to Be Studied in US and Japan.	Ohki T.	外科
69	Acta Med Okayama. 2010; 64:323-330	Analysis of reactive oxygen metabolites (ROMs) after cardiovascular surgery as a marker of oxidative stress.	Kanaoka Y, Inagaki E, Hamanaka S, Masaki H, Tanemoto K.	外科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
70	Oncol Reports 2010;24(4):843-850	Anti-tumor effect by inhibition of NF- $\kappa$ B activation using nafamostat mesilate for pancreatic cancer in a mouse model.	Furukawa K, Iida T, Shiba H, Fujiwara Y, Uwagawa T, Shimada Y, Misawa T, Ohashi T, Yanaga K.	外科
71	J Palliat Med 2010;13(7):815-8	Proton-pump inhibitor as palliative care for chemotherapy-induced gastroesophageal reflux disease in pancreatic cancer patients.	Uwagawa T, Misawa T, Iida T, Sakamoto T, Gocho T, Wakiyama S, Hirohara S, Yanaga K.	外科
72	Surgery 2010;148(5):925-35	Immunogene therapy against colon cancer metastasis using an adenovirus vector expressing CD40 ligand.	Iida T, Shiba H, Misawa T, Ohashi T, Eto Y, Yanaga K.	外科
73	J Hepato-Biliary-Pancreat Sci 2010;17(6):892-7	Perioperative changes in white blood cell count predicts outcome of hepatic resection for hepatocellular carcinoma.	Fujiwara Y, Shiba H, Furukawa K, Iida T, Sakamoto T, Gocho T, Wakiyama S, Hirohara S, Ishida Y, Misawa T, Ohashi T, Yanaga K.	外科
74	Artificial Organs 2011;35(1):80-83	Transplantation of liver organoids in the omentum and kidney.	Saito R, Ishii Y, Ito R, Nagatsuma K, Tanaka K, Saito M, Maehashi H, Nomoto H, Ohkawa K, Mano H, Aizawa M, Hano H, Yanaga K, Matsuura T.	外科
75	Anticancer Research 2010;30:5129-36	Glasgow prognostic score is related to blood transfusion requirements and post-operative complications in hepatic resection for hepatocellular carcinoma.	Fujiwara Y, Shiba H, Furukawa K, Iida T, Haruki K, Gocho T, Wakiyama S, Hirohara S, Ishida Y, Misawa T, Ohashi T, Yanaga K.	外科
76	J Surg Res 2010;161:139-145	F(2)-isoprostanes and 2-arachidonylglycerol as biomarkers of lipid peroxidation in pigs with hepatic ischemia/reperfusion injury.	Ishii Y, Sakamoto T, Ito R, Yanaga K.	外科
77	JMJ 2010;57:39-41	Hepatopulmonary syndrome improved by living-related liver transplantation: a case report.	Gocho T, Ishida Y, Kita Y, Iida T, Sakamoto T, Ito R, Shiba H, Wakiyama S, Uwagawa T, Hirohara S, Misawa T, Zeniya M, Yanaga K.	外科
78	Liver Transpl. 2011;17(3):351-3	Successful liver transplantation from a living donor with asymptomatic pulmonary cryptococcosis.	Matsumoto M, Kita Y, Gocho T, Wakiyama S, Sakamoto T, Iida T, Misawa T, Ishida Y, Yanaga K.	外科



(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
79	Breast Cancer 2010;17:151-154.	Malignant Neoplasm in the Axilla of a Male: Suspected Primary Carcinoma of an Accessory Mammary Gland.	Takeyama H, Takahashi H, Tabei I, Fukuchi O, Nogi H, Kinoshita S, Uchida K, Morikawa T.	外科
80	Breast Cancer. 2010;17:71-4.	Metachronous secondary primary occult breast cancer initially presenting with metastases to the contralateral axillary lymph nodes: report of a case.	Kinoshita S, Hirano A, Kobayashi S, Komine K, Kyoda S, Takeyama H, Uchida K, Morikawa T, Nagase J, Sakamoto G.	外科
81	Journal of Nanomaterials, 2010;7.	Detection of Thyroid Carcinoma Antigen with Quantum Dots and Monoclonal IgM Antibody (JT-95) System.	Fujioka K, Manabe N, Nomura M, Watanabe M, Takeyama H, Hoshino A, Manome Y.	外科
82	Eur J Cardiothorac Surg. 2010;37(4)824-6	Unilateral thoracoscopic subtotal thymectomy for the treatment of stage I and II thymoma.	Odaka M, Akiba T, Yabe M, Hiramatsu M, Matsudaira H, Hirano J, Morikawa T.	外科
83	Pediatr SurgInt. Dec;26(12):1179-84	Expression patterns of microRNAs are altered in hypoxic human neuroblastoma cells.	Yamagata T, Yoshizawa J, Ohashi S, Yanaga K, Ohki T.	外科
84	Heart View 2010; 14(9):88-93.	大動脈瘤のステントグラフト治療 胸腹部大動脈瘤治療の適応と限界.	大木隆生.	外科
85	日本血管外科学会雑誌. 2010;19(4):547-555.	胸部大動脈瘤に対するステントグラフト治療の適応拡大のための工夫と成績.	金岡祐司, 大木隆生, 戸谷直樹, 石田厚, 立原啓正, 平山茂樹, 黒澤弘二, 墨誠, 太田裕貴, 金子健二郎.	外科
86	Lisa 2010;17巻2号:172-180.	血管内治療の麻酔 大動脈疾患に対する血管内治療の位置づけと今後の展望.	黒澤弘二, 大木隆生.	外科
87	胸部外科 2011;64(1):32-38.	弓部大動脈瘤に対するステントグラフト術の工夫.	鈴木俊亮, 墨誠, 金岡祐司, 大木隆生.	外科
88	日内鏡外会報 2010;15(4):519-524	脾門挙上法により術野展開が有用である単孔式腹腔鏡下脾臓摘出術	三澤健之, 筒井信浩, 坂本太郎, 伊藤隆介, 後町武志, 矢永勝彦	外科
89	肝臓 2011;52(1):36-40	生体肝移植の待機中に脾梗塞を認めた原発性胆汁性肝硬変の1例	原裕子, 北嘉昭, 脇山茂樹, 後町武志, 坂本太郎, 広原鍾一, 石田祐一, 三澤健之, 矢永勝彦	外科
90	日本臨床. 2010;68(7):1355-1359	【内視鏡・内視鏡外科治療最前線 低侵襲治療の進歩】内視鏡外科治療の進歩 呼吸器外科領域	森川利昭.	外科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
91	日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌. 2010;10(1):76	高度肺気腫症例の肺減量手術におけるステープリングの工夫	神谷紀輝, 浅野久敏, 矢部三男, 平野純, 尾高真, 森川利昭.	外科
92	肺癌 2010;50(5) 637	EBUS-TBNA施行症例の検討	浅野久敏, 矢部三男, 神谷紀輝, 平野純, 尾高真, 森川利昭.	外科
93	日本内視鏡外科学会雑誌. 2010;15(7) 631	成熟型縦隔奇形腫に対する胸腔鏡下手術	浅野久敏, 矢部三男, 神谷紀輝, 平野純, 尾高真, 森川利昭.	外科
94	日本呼吸器外科学会雑誌. 2010;25(2):194-197	胸壁腫瘍に対するGORE-TEX Dual Meshを用いた胸壁再建の1手術例	森彰平, 秋葉直志, 丸島秀樹, 森川利昭.	外科
95	乳癌の臨床 2010;25:593-598.	肉芽腫性乳腺炎の3例—ステロイド治療の検討—.	加藤久美子, 神尾麻紀子, 野木裕子, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 武山浩, 池上雅博, 内田賢.	外科
96	東京慈恵会医科大学雑誌 2010;125: 85-8.	膀胱癌からの両側乳腺転移の1例 膀胱癌乳腺転移.	神尾麻紀子, 加藤久美子, 野木裕子, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 武山浩, 内田賢.	外科
97	日本臨床外科学会雑誌 2010;71:1121-1125.	大学病院における女性医師の労働環境改善への提言.	川瀬和美.	外科
98	Osteoporosis Japan 2010;18(4):639-642.	非侵襲的骨質(材質)評価法の確立 皮膚AGEsリーダー・血/尿中ペントシジンおよび腎機能を指標として	木田吉城, 斎藤充, 曾雌茂, 丸毛啓史	整形外科
99	L Spine Res 2010;1:2101-2105.	Long-term follow up of adolescent idiopathic scoliosis: Evaluation of the outcomes using SRS-22 in surgically treated patients.	Soshi S, Inoue T, Kida Y, Shinohara A, Marumo K.	整形外科
100	Journal of Orthopaedic Research 2010;28(10):1338-1347.	Long bone fracture repair in mice harboring GFP reporters for cells within the osteoblastic lineage.	Ushiku C, Adams DJ, Jiang Xi, Wang L, Rowe DW., Marumo K.	整形外科
101	Jikeikai Med J 2010;57:141-147.	Chronic arthritis of the knee due to synovial metastasis.	Ryu K, Soshi S, Marumo K.	整形外科
102	J Biomed Mater Res A. 2010;93(2):469-474.	Effect of alendronate on bone formation and osteoclastic resorption after implantation of beta-tricalcium phosphate.	Tanaka T, Saito M, Marumo K.	整形外科
103	Clinical Neuropathology 2010;29(5):334-340	Intramedullary spinal cord metastases of malignant melanoma:an autopsy case report and review of literature.	Ishii T, Terao T, Komine K, Abe T.	脳神経外科

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
104	Anticancer Reserch 2010;30:1057-1064	Novel Local Drug Delivery System Using Thermoreversible Gel in Combination with Polymeric Microspheres or Liposomes.	Arai T, Benny O, Joki T, Menon LG, Machluf M, Abe T, Carroll RS, Black PM.	脳神経外科
105	J Neurosurg Spine 2010;12:342-346	A unique device, the disc space-fitted distraction device, for anterior cervical discectomy and fusion:early cclinical and radiological evaluation.	Tani S, Nagashima H, Isoshima A, Akiyama M, Ohashi H, Tochigi S, Abe T.	脳神経外科
106	Neurologia medico-chirurgica;2010:50(8)698-701	Arachnoidplasty for Traumatic Subdural Hygroma Associated with Arachnoid Cyst in the Middle Fossa -Case Report-.	Hasegawa Y, Tanaka T, Kato N, Kaku S, Arai T, Abe T.	脳神経外科
107	Neurologia medico-chirurgica;2010:50(10)893-899	Comparing Accuracy of Cerebral Aneurysm Size Measurements From Three Routine Investigations:Computed Tomography, Magnetic Resonance Imaging, and Digital Subtraction Angiography.	Takao H, Murayama Y, Ishibashi T, Saguchi T, Ebara M, Arakawa H, Irie K, Iwasaki Umezu M, Abe T.	脳神経外科
108	Neurologia medico-chirurgica;2010:50(12)1132-1136	New Titanium Spacer for Cervial Laminoplasty:Initial Clinical Experience -Technical Note-.	Tani S, Suetsuna F, Mizuno J, Uchikado H, Nagashima H, Akiyama M, Isoshima A, Ohashi H, Hirano Y, Abe T.	脳神経外科
109	頭頸部癌 36(1):67~72, 2010.	前外側大腿皮弁を用いた咽頭温存下咽頭、咽頭部分切除の再建症例の検討—他再建と比較検討—	石田勝大, 加藤孝邦1, 清野洋一1, 牧野陽二郎, 青木謙祐1, 平澤良征1, 内田満(1:耳鼻咽喉科).	形成外科
110	日形会誌 30:7, 341~345, 2010.	合短指症に対する把持動作再建の治療経験	酒井新介, 内田満.	形成外科
111	日本レーザー医学会誌 31:2, 110~114, 2010.	莓状血管腫に対する早期ダイレーザー治療の検討	田中誠児, 余川陽子, 藤本雅史, 岸慶太, 岸陽子.	形成外科
112	Ann Thorac Surg 2010;89:1951-5	Reconsideration of Patient-Prosthesis Mismatch Definition from the Valve Indexed Effective Orifice Area.	I. Sakamoto Y, Yoshitake M, Naganuma H, Kawada N, Kinouchi K, Hashimoto K.	心臓外科
113	Ann Thorac Surg 2011;91:621-3	Balloon catheter pulmonary embolectomy under direct visual control using a choledochoscope.	Kawahito K, Adachi H.	心臓外科
114	Ann Thorac Cardiovasc Surg 2010;16:91-8	Electron beam cine CT-Based evaluation of left atrial function after the Maze procedure for mitral valve regurgitation.	Yoshitake M, Takakura H, Sasaki T, Hachiya T, Onoguchi K, Taguchi S, Hoshi T, Hashimoto K.	心臓外科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
115	J Artif Organs 2010;13:178-81	Erythrocyte-protective effect of sarpogrelate hydrochloride (Anplag <sup>®</sup> ), a selective 5-HT <sub>2</sub> receptor antagonist: an in vitro study.	Nakamura K, Kawahito K.	心臓外科
116	J Artif Organs: doi: 10.1007/s10047-010-0549-1 (Online First).	Time-related hemolysis in stored shed mediastinal blood after cardiopulmonary bypass.	Nakamura K, Kawahito K.	心臓外科
117	日本産婦人科内視鏡学会雑誌	腹腔鏡手術にて診断、治療いた卵管捻転の1例	大浦訓章、齋藤幸代、高橋絵理、杉山信依、川口里恵、林博、杉本公平、田中忠夫	産婦人科
118	Cytometry Research 第20 巻 第2号 Page13-19	【生殖医療とフローサイトメトリー】 不育症治療における同種免疫異常の探索	杉本公平、川口里恵、高橋絵理、安田允、田中忠夫	産婦人科
119	BMC Cancer 2010;10:52.	Transperineal prostate Brachytherapy, using I-125 seed with or without adjuvant androgen Deprivation, in patients with intermediate-risk prostate cancer: Study protocol for a phase III, multicenter, randomized, controlled Trial.	Miki K, Kiba T, Sasaki H, Kido M, Aoki M, Takahashi H, Miyakoda K, Dokiya T, Yamanaka H, Fukushima M, Egawa S.	泌尿器科
120	Urology 2010 ; 75(4), 862-7.	Differential Roles of M2 and M3 Muscarinic Receptor Subtypes in Modulation of Bladder Afferent Activity in Rats.	Matsumoto Y, Miyazato M, Furuta A, Torimoto K, Hirao Y, Chancellor MB, Yoshimura N.	泌尿器科
121	Gene Therapy 17(4):521-3 2010	Neonatal gene transfer using lentiviral vector for murine Pompe disease: long-term expression and glycogen reduction.	Kyosen S01), Iizuka S1), Kobayashi H1), Kimura T1), Fukuda T1), Shen J 1), Shimada Y1), Ida H 2), Eto Y 1), Ohashi T1) (1.Division of Gene Therapy, Institution of DNA medicine. 2. Department of Pediatrics).	泌尿器科
122	Human Gene Therapy 2010;21(1):40-50.	Transduction of Humanized Liver Tissue in Chimeric Mice via High-capacity Adenovirus- Lentivirus Hybrid Vector.	Kubo S1), Kataoka M1), Tateno C 1), Yoshizato K 1), Kawasaki Y1), Kimura T1), Faure-Kumar E1), Palmer DJ 1), Ng P1), Okamura H1), Kasahara N 1) (1.UCLA). In Vivo Stable .	泌尿器科
123	Int. J. Urol. 2010;17:960-1.	Upfront transection and subsequent ligation of the dorsal vein complex During laparoscopic radical prostatectomy.	Sasaki H, Miki J, Kimura T, Yamamoto T, Koike Y, Miki K and Egawa S.	泌尿器科

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
124	Low Temperature Medicine 2010 ; 36 (4) : 103-8	Chronological changes after MRI-guided percutaneous cryotherapy for small renal tumors	Takashi Hatano, Tadashi Uno, Syunsuke Tsuduki, Yusuke Koike, Ken-ichi Hata, Koichi Kishimoto, Takuji Mogami, Yoshimitsu Sunakawa, Junta Harada, Shin Egawa.	泌尿器科
125	Jpn J Ophthalmol 2010; 54: 372-3.	A case of neuromyelitis optica developing into myelitis 25 years after optic neuritis.	Ogasawara M, Sakai T, Shikishima K, Takagi M, Tanaka K	眼科
126	日眼会誌 2011; 115: 41-4.	下眼瞼に生じたMoll腺由来の混合腫瘍の1例.	小笠原幹英, 敷島敬悟	眼科
127	J Fr Ophtalmol 2010; 33(9): 670-9.	Value of the functional neural tractography in the reconstruction of the visual pathways in DTMRI	Istoc A, Habas C, Iba-Zizen MT, Nguyen TH, Abanou A, Yoshida M, Bellinger L, Le Gargasson JF, Cabanis EA.	眼科
128	ikeikai Med J 2010; 57(2): 67-71.	Twenty-three-gauge vitrectomy with bevacizumab in patients having proliferative diabetic retinopathy with an active fibrovascular membrane	Watanabe A, Gekka T, Shibata T, Takashina H, Tsuneoka H.	眼科
129	Jpn J Ophthalmol 2010; 54(5): 383-6.	Change in anterior chamber depth following combined pars plana vitrectomy, phacoemulsification, and intraocular lens implantation using different types of intraocular lenses.	Watanabe A, Shibata T, Ozaki M, Okano K, Kouzaki K, Tsuneoka T.	眼科
130	Jpn J Ophthalmol 2010; 54(4): 360-1.	Intraocular surgery in patients receiving infliximab therapy for Behcet disease.	Sakai T, Kanetaka A, Noro T, Tsuneoka H.	眼科
131	Invest Ophthalmol Vis Sci 2011; 52(3): 1516-21.	Therapeutic effect of stealth-type polymeric nanoparticles with encapsulated betamethasone phosphate on experimental autoimmune uveoretinitis.	Sakai T, Ishihara T, Higaki M, Akiyama G, Tsuneoka H.	眼科
132	Ophthalmic Res 2011; 46(4): 175-80.	Macular dysfunction in Oguchi disease with the frequent mutation 1147delA in the SAG gene.	Hayashi T, Tsuzuranuki S, Kozaki K, Urashima M, Tsuneoka H.	眼科
133	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2011; 249(2): 201-8.	A novel mutation (Cys83Tyr) in the second zinc finger of NR2E3 in enhanced S-cone syndrome.	Rocha-Sousa A, Hayashi T, Lourenço Gomes N, Brandão E, Penas S, Rocha P, Urashima M, Yamada H, Tsuneoka H, Falcão- Reis F.	眼科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
134	Invest Ophthalmol Vis Sci 2010; 51(10): 5356-64.	Task-dependent V1 responses in human retinitis pigmentosa.	Masuda Y, Horiguchi H, Dumoulin SO, Furuta A, Miyauchi S, Nakadomari S, Wandell BA.	眼科
135	J Vis 2010; 10(5): 1.	Mapping hV4 and ventral occipital cortex: the venous eclipse.	Winawer J, Horiguchi H, Sayres RA, Amano K, Wandell BA.	眼科
136	Proc Natl Acad Sci U S A 2010; 107(18): 8428-33.	Palmitoylation stabilizes unliganded rod opsin.	Maeda A, Okano K, Park PS, Lem J, Crouch RK, Maeda T, Palczewski K.	眼科
137	J Biol Chem. 2011; 286(12): 10551-67.	Probing mechanisms of photoreceptor degeneration in a new mouse model of the common form of autosomal dominant retinitis pigmentosa due to P23H opsin mutations.	Sakami S, Maeda T, Bereta G, Okano K, Golczak M, Sumaroka A, Roman AJ, Cideciyan AV, Jacobson SG, Palczewski K.	眼科
138	日眼会誌 2010; 114(5): 454-458.	Stickler症候群に発症した裂孔原性網膜剥離の1例.	渡邊展佳、神前賢一、久保寛之、岡野喜一郎、渡辺朗、常岡寛.	眼科
139	Auris Nasus Larynx. 2011 May 18. [Epub ahead of print]	Nasal splinting using silicone plates without gauze packing following septoplasty combined with inferior turbinate surgery.	Asaka D, Yoshikawa M, Okushi T, Nakayama T, Matsuwaki Y, Otori N, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
140	Auris Nasus Larynx. 2011 May 13. [Epub ahead of print]	Primary localized amyloidosis of the nose.	Nakayama T, Otori N, Komori M, Takayanagi H, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
141	Auris Nasus Larynx. 2011 May 13. [Epub ahead of print]	Evaluation of symptoms and QOL with calcium alginate versus chitin-coated gauze for middle meatus packing after endoscopic sinus surgery.	Okushi T, Yoshikawa M, Otori N, Matsuwaki Y, Asaka D, Nakayama T, Morimoto T, Moriyama H	耳鼻咽喉科
142	Auris Nasus Larynx. 2011 Oct;38(5):632-7. Epub 2011 Mar 9.	A case of sphenoid sinus meningoencephalocele repaired by an image-guided endoscopic endonasal approach.	Sano H, Matsuwaki Y, Kaito N, Joki T, Okushi T, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
143	Nihon Rinsho. 2010 Jul;68(7):1360-5.	[Progress in endoscopic sinus surgery].	Matsuwaki Y, Moriyama H.	耳鼻咽喉科
144	Otology Japan2010;20(5): 677-83	弛緩部型真珠腫の手術成績からみた「真珠腫進展度分類案2008年」の検討	小島博己(東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科学教室), 吉田隆一, 志和成紀, 田中康広, 森山寛	耳鼻咽喉科
145	Otology Japan2011;21(1): 70-6	【Decision making in tympanoplasty(その時、あなたは どうする?)】 硬膜とS状静脈洞に癒着を伴った真珠腫症例	小島博己	耳鼻咽喉科

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
146	耳鼻咽喉科展望2010;53(6):408-14	培養中耳粘膜における上皮間葉相互作用についての基礎的検討	吉川衛(東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科学教室), 小島博己, 山本和央, 濱孝憲, 田中康広, 森山寛	耳鼻咽喉科
147	耳鼻と臨床2010;56(1):81-8	下咽頭癌 喉頭機能温存治療 下咽頭癌に対する喉頭温存手術治療	清野洋一, 石田勝大, 加藤孝邦	耳鼻咽喉科
148	頭頸部癌2010;36(1):57-61	下咽頭がんにおける喉頭温存手術治療について	清野洋一, 飯野孝, 青木謙祐, 石田勝大, 濱孝憲, 平澤良征, 須田稔士, 齋藤孝夫, 波多野篤, 加藤孝邦	耳鼻咽喉科
149	耳鼻咽喉科展望2010;53(2):103-11	耳硬化症初回手術例の臨床的検討	山本和央, 内水浩貴, 田中康広, 志和成紀, 小島博己, 森山寛	耳鼻咽喉科
150	耳鼻咽喉科展望2010;53(4):234-8	歯科インプラント治療に伴う上顎洞炎	中山次久, 真崎正美, 宮崎日出海	耳鼻咽喉科
151	Otology Japan2010;20(3):156-63.	救急診療での小児急性中耳炎に対する抗菌薬投与の影響	小森学, 安藤裕史, 露無松里, 飯村慈朗, 波多野篤, 小島博己, 森山寛	耳鼻咽喉科
152	耳鼻咽喉科展望2010;53(4):228-33	結核病棟における耳鼻咽喉科領域結核の現状	小森学, 新井千昭, 安藤裕史, 露無松里, 飯村慈朗, 重田泰史, 波多野篤	耳鼻咽喉科
153	耳鼻咽喉科展望2010;53(3):180-3	咽喉頭異常感を主訴としたZenker憩室の1症例	穂吉亮平, 内水浩貴, 加藤孝邦	耳鼻咽喉科
154	耳鼻咽喉科展望2010;53(3):173-9	巨大耳下腺腫瘍の1症例	市山紗弥香(東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科学教室), 飯野孝, 谷口雄一郎, 小島博己, 加藤孝邦	耳鼻咽喉科
155	耳鼻咽喉科展望2010;53(6):420-6	成人型特発性髄液耳漏の1症例	市山紗弥香, 谷口雄一郎, 小島博己	耳鼻咽喉科
156	耳鼻咽喉科展望2010;53(2):117-20	粘液嚢胞を合併した巨大中鼻甲介蜂巣の1例	澤井理華, 浅香大也, 鴻信義	耳鼻咽喉科
157	耳鼻咽喉科展望2010;53(6):415-9	直達喉頭鏡でのアプローチのみで治癒しえた頸部膿瘍を伴う咽頭腔外魚骨異物の1例	澤井理華, 小森学, 遠藤誠, 加藤孝邦	耳鼻咽喉科
158	Japanese Journal of Cognitive Neuroscience.	Validity and reliability of a computerized cognitive assessment tool 'Higher Brain Functional Balancer' for healthy elderly people.	Honda M, Hashimoto K, Miyamura K, Goto H, Abo M.	リハビリテーション科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
159	Brain injury.	Low-frequency rTMS combined with intensive occupational therapy for upper limb hemiparesis after brain tumour resection.	Kakuda W, Abo M, Kobayashi K, Momosaki R, Yokoi A, Ito H, Umemori T.	リハビリテーション科
160	International journal of rehabilitation research.	Low-frequency repetitive transcranial magnetic stimulation and intensive occupational therapy for poststroke patients with upper limb hemiparesis: preliminary study of a 15-day protocol.	Kakuda W, Abo M, Kobayashi K, Momosaki R, Yokoi A, Fukuda A, Ishikawa A, Ito H, Tominaga A.	リハビリテーション科
161	Brain injury.	Low-frequency rTMS with language therapy over a 3-month period for sensory-dominant aphasia: Case series of two post-stroke Japanese patients.	Kakuda W, Abo M, Uruma G, Kaito N, Watanabe M.	リハビリテーション科
162	The Journal of injury, function and rehabilitation.	Baseline Severity of Upper Limb Hemiparesis Influences the Outcome of Low-Frequency rTMS Combined With Intensive Occupational Therapy in Patients Who Have Had a Stroke.	Kakuda W, Abo M, Kobayashi K, Takagishi T, Momosaki R, Yokoi A, Fukuda A, Ito H, Tominaga A.	リハビリテーション科
163	Brain & Development.	Validity and reliability of Ability for Basic Movement Scale for Children (ABMS-C) in disabled pediatric patients.	Miyamura K, Hashimoto K, Honda M.	リハビリテーション科
164	Brain injury.	Anti-spastic effect of low-frequency rTMS applied with occupational therapy in post-stroke patients with upper limb hemiparesis.	Kakuda W, Abo M, Kobayashi K, Momosaki R, Yokoi A, Fukuda A, Ito H, Tominaga A, Umemori T, Kameda Y.	リハビリテーション科
165	The Journal of general virology.	Adaptive mutations in the genomes of enterovirus 71 strains following infection of mouse cells expressing human P-selectin glycoprotein ligand-1.	Miyamura K, Nishimura Y, Abo M, Wakita T, Shimizu H.	リハビリテーション科
166	The International journal of neuroscience.	Combination Treatment of Low-Frequency rTMS and Occupational Therapy with Levodopa Administration: An Intensive Neurorehabilitative Approach for Upper Limb Hemiparesis After Stroke.	Kakuda W, Abo M, Kobayashi K, Momosaki R, Yokoi A, Fukuda A, Ito H, Tominaga A.	リハビリテーション科
167	Arch Oral Biol 2010 ; 55 : 803-8.	Changes in the lingual muscles of obese rats induced by high-fat diet feeding.	Saito T, Yamane A1, Kaneko S1, Ogawa T1, Ikawa T1, Saito K1 (ITSurumi Univ), Sugisaki M.	歯科
168	日顎関節会誌 2010 ; 22 : 176-80.	有痛顎関節症患者用日常生活障害度質問票 (LDF-TMDQ) の信頼性.	来間恵里, 杉崎正志, 木野孔司(東医歯大), 玉井和樹, 齋藤 高, 林 勝彦.	歯科



(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
169	Artif Organs	Transplantation of liver organoids in the omentum and kidney.	Saito R, Matsuura T.	臨床検査医学講座
170	Radioisotopes	<sup>13</sup> Cグルコース呼吸試験を利用した3次元還流培養系の活性測定とその応用.	田中 賢、松浦知和、	臨床検査医学講座
171	日本検査血液学会雑誌 2011、12:177-184	造血器腫瘍におけるder(1;7)(q10;p10)の臨床的意義.	神田 俊、海渡 健、 他	中央検査部
172	Thrombosis research. 2010;126:217-21.	Prospective external validation of the new scoring system for disseminated intravascular coagulation by Japanese Association for Acute Medicine (JAAM).	Iwai K, Uchino S, Endo A, Saito K, Kase Y, Takinami M.	集中治療部
173	Nephrology Dialysis Transplantation. 2010;25:1833-9.	Transient azotaemia is associated with a high risk of death in hospitalized patients.	Uchino S, Bellomo R, Bagshaw SM, Goldsmith D.	集中治療部
174	Critical Care. 2010;14:R46.	Cost of acute renal replacement therapy in the intensive care unit: results from The Beginning and Ending Supportive Therapy for the Kidney (BEST Kidney) study.	Srisawat N, Lawsin L, Uchino S, Bellomo R, Kellum JA; BEST Kidney Investigators.	集中治療部
175	Biochimica et biorhysica acta. 2010;1797(10):1749- 58.	Monitoring mitochondrial electron fluxes using NAD(P)H-flavoprotein fluorometry reveals complex action of isoflurane on cardiomyocytes.	Sedlic F, Pravdic D, Hirata N, Mio Y, Sepac A, Camara AK, Wakatsuki T, Bosnjak ZJ, Bienengraeber M.	麻酔部
176	Biochemical and biophysical research communications. 2010;402(2):312-8.	Gene disruption of caspase-3 prevents MPTP-induced Parkinson's disease in mice.	Yamada M, Kida K, Amutuhaire W, Ichinose F, Kaneki M.	麻酔部
177	Shock. 2010;34(3):281-90.	Nos3 protects against systemic inflammation and myocardial dysfunction in murine polymicrobial sepsis.	Bougaki M, Searles RJ, Kida K, Yu J, Buys ES, Ichinose F.	麻酔部
178	British journal of pharmacology. 2010;160(2)220-32.	Isoflurane protects cardiomyocytes and mitochondria by immediate and cytosol-independent action at reperfusion.	Pravdic D, Mio Y, Sedlic F, Pratt PF, Warltier DC, Bosnjak ZJ, Bienengraeber M.	麻酔部
179	Endoscopy 2010; 42(8): 627-32.	Chemically assisted submucosal injection facilitates endoscopic submucosal dissection of gastric neoplasms.	Sumiyama K, Tajiri H, Gostout CJ, Kawamura M, Imazu H, Ohya TR, et al.	内視鏡科
180	Surg Technol Int 2010; 19: 91-6.	Prophylactic Hemostasis for Postpolypectomy Mucosal Defect using Endoclip under Infrared Imaging Endoscopy.	Tamai N, Matsuda K, Sumiyama K, Isshi K, Narimiya N, Tajiri H.	内視鏡科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
181	Gastrointest Endosc 2011; 73(1): 117-22.	Evaluation of a new multitasking platform for endoscopic full-thickness resection.	Ikeda K, Sumiyama K, Tajiri H, Yasuda K, Kitano S.	内視鏡科
182	Minim Invasive Ther Allied Technol 2011 [Online, 1-7]	A pilot study on ultrasound-assisted liposuction of the greater omentum in porcine models.	Sumiyama K, Utsunomiya K, Ohya T, Aihara H, Ikeda K, Imazu H, et al.	内視鏡科
183	日臨 2010; 68(7): 1285-9.	内視鏡外科診療技術の開発と進歩 NOTES(経管腔的内視鏡手術).	炭山和毅, 池田圭一, 田尻久雄.	内視鏡科
184	消化器医学 2010; 8: 117-9.	DDW2010in New Orleans.	大谷友彦, 田尻久雄.	内視鏡科
185	Mol Pharmacol April. 2010;77:704-713.	Sphingosine 1-Phosphate (S1P) Regulates Vascular Contraction via S1P3 Receptor: Investigation Based on a New S1P3 Receptor Antagonist.	Murakami A, Takasugi H, Ohnuma SI, Koide Y, Sakurai A, Takeda S, et al. A, Mochizuki N, Takakura N.	救急部
186	Therapeutic Apheresis and Dialysis. 2010;14(4):434-435.	Hepatitis B Surface Antigen Is a Better Monitor of Infectivity Compared With Antibody to Heratitis B Core Antigen in Hemodialysis Patients.	Kei Otani, Kasuga Y, Kimura Y, Mukaide M, Yanai H, Koyama T, Fujise K.	救急部
187	厚生労働科学研究費補助金 (医療技術実用化総合研究事業) 総括・分担研究報告書. 2010;49-51.	経頭蓋超音波併用脳血栓溶解法の再開通時間評価に関する研究.	小川武希, 持尾聰一郎, 三村秀毅.	救急部
188	日本化学療法学会雑誌	Tosufloxacin細粒10%の小児臨床試験における安全性の検討	堀 誠治	感染制御部
189	Int J Hematol 91, 201-208, 2010	Guidelines for safety management of granulocyte transfusion in Japan	Akimichi O, Kikuta A, Ohto H, Ohara A, Ishida A, Osada K, Tasaki T, Kamitamari A, Iwai A, Kai S, Maekawa T, Hoshi Y	輸血部
190	Mol Genet Metab 100(1): 14-9; 2010	Prognostic factors for the late onset Pompe disease with enzyme replacement therapy: from our experience of 4 cases including an autopsy case.	Kobayashi H, Shimada Y, Ikegami M, Kawai T et al.	病院病理部
191	J Neuropath Exp Neur 69(5): 498-510; 2010	Expression of hydroxyindole-0-methyltransferase enzyme in the human central nervous system and in pineal parenchymal cell tumors.	Fukuda T, Akiyama N, Ikegami M, Takahashi H et al.	病院病理部
192	Hepatogastroenterology 57: 462-7; 2010	Endoscopic features of nonampullary duodenal tumors with narrow-band imaging.	Yoshimura N, Goda K, Tajiri H, Ikegami M et al.	病院病理部

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
193	臨透析 26(5): 519-32; 2010	[透析患者の心臓 心臓病による死亡を減らすために] 長期透析患者の心臓病理学.	河上牧夫, 吉田啓, 中山昌明, 池上雅博, 川口良人.	病院病理部
194	胃と腸 45(5): 715-9; 2010	[早期大腸癌2010] 早期大腸癌の病理PG, NPG分類からみた早期大腸癌の発育様式.	池上雅博.	病院病理部
195	検と技 38(7): 578-80; 2010	ホルマリン希釈混合装置を用いた衛生工学的対策.	梅沢敬, 土屋幸子, 芦川智美, 福村絢奈, 佐藤俊, 池上雅博.	病院病理部
196	消内視鏡 22(7): 1073-9; 2010	[病理医から内視鏡医への注文] 上部・下部消化管における検体処理の仕方 病理医からみて.	中尾裕, 池上雅博, 斎藤彰一, 梅澤敬.	病院病理部
197	大腸癌Front 4(1): 54-8; 2011	[大腸癌の病理診断をみつめる] PG, NPG分類からみた大腸癌の発育、進展.	池上雅博, 中尾裕, 斎藤彰一.	病院病理部
198				
199				
200				

合計 197件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 森山 寛	
管理担当者氏名 (担当代表者)	診療に関する 諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
事務部長 今出 進章	管理運営に関する 諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長 財務部長、他関係部署責任者

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		院長室 診療部署単位 〔診療情報室 各科外来 各病棟 フィルム係他〕	科別、入院外来別、年度別、 月別患者登録番号順、日付順 (記録の種類により異なる)
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	人事課 臨床研修センター 教員・医師人事室	個々の項目別によるファイル (記録の種類により異なる)
	高度の医療の提供の実績	診療各科、管理課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	診療各科、管理課	
	高度の医療の研修の実績	診療各科、管理課	
	閲覧実績	管理課、業務課	
	紹介患者に対する医療提供 の実績	診療各科	
入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	管理課、業務課、 薬剤部		
第規 一則 号第 一 掲条 げの る十 体一 制第 一 確項 保各 の号 状及 況 第 九 条 の 二 十 三	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	医療安全推進室及 び関係各部署	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	医療安全推進室	医療安全推進室「委員会」ファイル
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	医療安全推進室	医療安全推進室「教育研修」ファイル
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全推進室	医療安全推進室「管理」ファイル
	専任の医療に係る安全 管理を行う者の配置状 況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染対策室	東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針
	医療に係る安全管理 を行う部門の設置状況	医療安全推進室	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針

	第一項	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	看護部 (患者相談窓口担当)	東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
--	-----	------------------------------------	-------------------	---------------------------

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一 第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室 東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策指針
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室 感染対策室「感染対策委員会」ファイル
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全推進室 感染対策室 医療安全推進室「教育研修」ファイル
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室 感染対策室ファイル
		医薬品の使用に係る安全管理のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療安全推進室「教育研修」ファイル
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 セーフティマネジメントマニュアル 医薬品安全使用のための業務手順書 実施状況調査ファイル
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室 医薬品安全使用のための業務手順書 「病棟部門・手術部門」 「外来部門・薬剤部・輸血部等」ファイル
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全推進室 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理指針
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療安全推進室「教育研修」ファイル
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部、放射線部、中央検査部、リハビリテーション科 セーフティマネジメントマニュアル内「医療機器の保守点検・安全使用に関する管理手順書」に基づく所定書式にて分類
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部 セーフティマネジメントマニュアル内「医療機器の保守点検・安全使用に関する管理手順書」に基づく所定書式にて分類		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	院長 森山 寛	
閲覧担当者氏名 (担当代表者) 事務部長 今出 進章	診療に関する諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長、放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
	管理運営に関する諸記録	事務部長、薬剤部長、総務部長、大学事務部長、他関係部署責任者
閲覧の求めに応じる場所	附属病院会議室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	3件
閲覧者別	医 師	延 件
	歯 科 医 師	延 件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 3件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	53.1%	算定期間	平成 22年 4月 1日～平成23年 3月 31日
算出根拠	A：紹介患者の数		23,012 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,562 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		4,703 人
	D：初診の患者の数		65,105 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 医療安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療安全管理のための組織・体制 3. 医療に係る安全管理のための教員研修 4. 医療問題発生時の対応 5. 医療事故発生時の対応 6. 患者相談窓口の設置 7. 患者との情報共有 8. 附属4病院の連携強化（情報の共有）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容：セーフティマネジメント委員会 1. 医療事故防止対策の検討及び研究 2. 医療事故の分析及び再発防止策の検討 3. 医療事故防止のための提言 4. 医療安全推進のための啓発、教育、広報及び出版 5. 医薬品、医療機器の安全管理及び院内感染の防止 6. 医療安全の推進に関すること 7. スタッコール(院内救急)に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 4 回
・ 研修の主な内容： 1. セーフティマネジメント基礎研修会 2. 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム 3. 転倒・転落予防のための勉強会 4. 褥瘡セミナー 5. 派遣・委託職員対象セーフティマネジメント研修会 6. BLSコース/ICLSコース 7. チーム医療構築ワークショップ 8. 医療機器の安全使用のための講習会	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 院長、医療安全管理部長及び医療安全推進室等の管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施 2. ネットワークパソコンによる医療問題発生報告システムの運用 3. 緊急セーフティマネジメント委員会での事実確認及び組織的対応の実施 4. セーフティマネジメント委員会及びフロアセーフティマネージャー会議、医療安全推進室を通じた再発防止策の周知と徹底 5. 医療問題分析ツール R C A 分析による根本原因の分析と対策立案 6. 問題種別のワーキンググループによる再発防止対策の立案と実践 7. 医療安全院内ラウンドによる評価、検証、フィードバックの実施 8. 関東信越厚生局及び東京都福祉保険局、日本医療機能評価機構への適切な報告 9. 所轄警察署への適切な報告 10. 異状死届出ガイドラインの整備とモデル事業への参画 11. 医療事故等に関する判定委員会の設置と医療事故等公表基準の整備	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2 名) ・ 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任（9）名 兼任（11）名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インシデント・アクシデント等の情報の収集、分析、予防・改善策の立案及び実施</li> <li>2. 教職員への安全に関する教育・研修の企画、実施</li> <li>3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載の確認と助言</li> <li>4. 改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言、コンサルテーション</li> <li>5. 改善策実施後の評価</li> <li>6. セーフティマネジメントマニュアルの整備・管理</li> <li>7. セーフティマネジメント委員会の資料及び議事録の作成及び保存、その他セーフティマネジメント委員会の庶務に関すること</li> <li>8. 医療安全連絡会議の運営に関すること</li> <li>9. 院内感染対策に関する連携</li> </ol> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無



(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>2. 院内感染対策のための組織</li><li>3. 院内感染対策のための教職員に対する研修</li><li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li><li>6. 当該指針の閲覧</li><li>7. 院内感染対策推進のために必要なその他の基本方針</li></ol></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 菌検出状況報告と対策の検討</li><li>2. 抗菌薬使用状況報告と対策の検討</li><li>3. 感染に関する問題発生報告と対策の検討</li><li>4. 血液体液汚染発生状況報告と対策の検討</li><li>5. 感染対策のための啓発、教育、広報に関する検討</li><li>6. 感染対策指針およびマニュアルの改訂、運用に関する検討</li></ol></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 4 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 感染対策ベーシックレクチャー</li><li>2. 耐性菌の感染対策</li><li>3. 抗菌薬適正使用について</li><li>4. 針刺し事故対策</li><li>5. 研修医オリエンテーション：感染対策について</li><li>6. 新入職看護師技術研修：標準予防策・針刺し事故防止</li><li>7. 委託業者対象感染対策勉強会（新型インフルエンザ・ノロウイルス）</li></ol></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<p>感染対策上重要な病原体が検出されると、検査室よりただちに感染対策室へ報告される。また病棟などで、感染力の強い感染症の疑いが発生した場合にも、ただちに感染対策室へ報告され、担当者が対応する体制となっている。感染対策室は、日々の情報収集から介入が必要な病棟や診療科を対象として重点的にミーティングや勉強会を開催している。</p></li></ul>	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容： 医薬品・医療機器安全使用セミナー (H23.3) 「向精神薬の管理」、「緑内障・喘息に必要な医薬品」 新人看護師研修 (H23.5) 「処方箋とくすり」、「注射薬混合調製の基礎知識」 ICU誤薬対策講習会 (H23.6) 「処方箋の読み方」 医薬品・医療機器安全使用セミナー (H23.7) 「医薬品安全使用のための業務手順書とハイリスク薬」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (○・無) ・ 業務の主な内容： 今年度は、抗癌剤投与に関する項目(新設)、医薬品情報の取り扱いに関する項目(変更)、血液製剤使用時の管理手順(変更)、ハイリスク薬掲載品目(変更)について業務手順書の改定を行い、その後手順書(チェックリストとして使用可)を関係部署へ配布し実施状況の確認を行い、記録した。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (○・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： セーフティマネジメント委員会の一部として、薬剤関連ワーキンググループを設置し、毎月インシデント報告の分析を基に改善の検討を行っている。また、薬剤部の医薬品情報室および病棟薬剤師等と連携、メーカー、インターネットからの収集、部外講習会への参加をするなどして情報の収集を行い必要に応じて院内への情報提供を行なっている。</p>	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年224回
<p>・ 研修の主な内容：平成22年度実績</p> <p>5月28日（金）輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取扱いについて  6月4日（金）輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取扱いについて  6月25日（金）医療安全のためのモニタリングテクニック  7月9日（金）医薬品・医療機器の安全講習会 医療機器「医療ガス、ボンベの安全使用を学ぶ」  9月17日（金）人工呼吸器の安全管理  10月1日（金）輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取扱いを学ぶ  11月12日（金）チェストドレーンバッグの基礎知識  11月19日（金）透析装置の正しく安全な取扱いを学ぶ  12月3日（金）除細動器の安全使用  1月21日（金）補助循環装置の安全使用 PCPS, IABP  2月4日（金）輸液ポンプ、シリンジポンプに関するリスクマネジメント  2月18日（金）酸素療法器具の正しい取扱いについて  3月18日（金）人工呼吸器装着中の正しい看護と気道ケアを学ぶ</p> <p>医療機器安全講習会（開催回数、出席者数）</p> <p>① 放射線部 26回（前年比：+7回）（参加者：162名 前年比：-85名）  ② 中央検査部 12回（前年比：+10回）（参加者：15名 前年比：-81名）  ③ リハ科 5回（前年比：+2回）（参加者：36名 前年比：-5名）  ④ 臨床工学部 181回（前年比：+1回）（参加者：1833名 前年比：+66名）</p> <p><b>総計：224回（前年比：+20回）（参加者総数：2046名 前年比：-105名）</b></p> <p>内）「医療機器安全使用のための講習会」 12回（前年比：-2回）  （参加者：511名 前年比：+99名）</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 （有・無）</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>中央検査部、リハビリテーション科、臨床工学部関連（各外来、ICU、CCU、母子センターなどの特殊病棟含む全病棟、手術室、血液浄化部、救急部、内視鏡部など）それぞれの部門に設置（配置）されている各種機器について、日常点検（始業点検、使用中点検、使用後点検）を行う。</p> <p>☆保守点検を実施している主な医療機器  人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプ</p>	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

**1. 安全性情報**

**① 診療連絡速報 (2回発行)**

平成23年8月 NO. 23-(81) A

「電気メスによる薬剤の引火について」

平成23年8月 NO. 23-(84) A

「医療ガスボンベ管理の再確認について」

**② 診療連絡報 (平成22年10月～平成23年9月現在：12回発行)**

平成22年10月 NO. 22-(107) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (9月分)」

平成22年11月 NO. 22-(113) B

「Matrix2 デタッチャブルコイル自主回収の報告」

平成22年11月 NO. 22-(118) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (10月分)」

平成22年12月 NO. 22-(131) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (11月分)」

平成22年12月 NO. 22-(132) B

「人工呼吸器取り扱い時の注意について」

平成23年1月 NO. 22-(149) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (12月分)」

平成23年3月 NO. 22-(166) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (2月分)」

平成23年4月 NO. 23-(23) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (3月分)」

平成23年6月 NO. 23-(53) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (5月分)」

平成23年6月 NO. 23-(54) B

「デュアルチャンネル自動植え込み型除細動器自主回収の報告」

平成23年7月 NO. 23-(73) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (6月分)」

平成23年9月 NO. 23-(102) B

「医療機器の不具合等に関する自主回収製品への対応報告 (8月分)」

**2. 医療機器安全管理作業部会情報**

**医療機器安全管理情報 (3回発行)**

平成22年10月

「心電図モニタの機能、機器の統一化に向けて、研修資料の閲覧について」

平成23年3月

「停電に備えて」

平成23年7月

「臨床工学部ホームページ開設」

3. 医療機器の不具合情報の発信（発生時随時）

平成23年度9月現在 自主回収報告数（発生件数）

合計：5件（クラスⅠ：1件、クラスⅡ：4件、クラスⅢ：0件、計5件）

1	5月6日	23-1	4月26日	Ⅰ	自動植込み型除細動器・パラダイム VR
2	5月31日	23-3	5月19日	Ⅱ	耳管用カテーテル 鼓膜ドレイン Bタイプ
3	5月31日	23-4	5月20日	Ⅱ	自然落下式・ポンプ接続兼用輸液セット プラネクタ輸液セット 側注用
4	6月13日	23-6	6月9日	Ⅱ	ポリアミド縫合糸 サージロン
5	8月24日	23-10	8月22日	Ⅱ	吸収性組織補強剤 デュエットTRS